

令和4年度 児童・保護者・職員アンケート結果の考察及び保護者からのご意見

【あいさつ】

- ・3項目とも、全体的に7月より評価が上がっている。当初は「笑顔」であいさつすることが難しいかと思われたが「笑顔」が伴ってきている。また、保護者のご意見にあいさつができないという声はあるが、全体では、子どもたちのあいさつがよくなっていると評価している。
- ・職員、児童会、コミ・スク、PTA、まちづくり協議会などと課題を共有し年間を通して取り組んだ成果が出た。
- ・【あいさつ】の項目については、保護者・職員が、「2」の評価が割合多くあり、保護者・職員と児童の評価に乖離があるため、次年度からも継続した指導が必要。

【学習】

- ・「相手の意見を理解しようと聞く、最後までしっかり話す」については、児童と保護者・職員間で評価に乖離がある。内容の理解まで到達するには、問い返し等の手立てが必要。
- ・毎日の読書については、職員が評価しているほど児童・保護者はできていると評価をしていないのは、家庭で読書をしている姿を見ていないのではないかと推察できる。それは、学校で短時間に読めてしまう本を多く借りているかもしれないので、家庭でじっくりと読む本を借りるような指導が必要。

【掃除】

- ・学校での掃除については、掃除の時間があるため、児童も比較的しっかりとできているが、家庭においては、自分でやらなくてもいい環境(家族の方がやってくれる)となっているため、保護者の評価は低いと考える。長期休みの期間だけでなく、普段から家族の一員としての自覚がもてる指導が必要。

【仲間】

- ・学校・家庭・子どもの意識のすべてで「いじめ」は許されないものとしてとらえている。
- ・「いじめ」は許されないことという認識はあるが、その場面を見たときにやめるように言うことは必ずしもできているとは言えない。「いじめは絶対にダメ!!」の啓発はできているため、今後は行動力の指導を行う必要がある。

【保護者の意見より(課題面のみ抜粋)】

- ・旗当番の時にあいさつが返ってこない。あいさつができる、笑顔あふれる学校になってほしい。
➡今後も職員、児童会、コミ・スク、PTA、地域と連携して年間を通して取り組んでいく。また、児童会を中心に子どもたちの主体的な取組を支援していく。
- ・学校から配付されるプリントで子どもが理解する必要があるものは、学校で説明してから渡してほしい。
➡今後、紙媒体での配付が減り、タブレットやスマート連絡帳でのお知らせが増えていくが、学校と職員だけのやり取りにならないよう、必要なものは必ず子どもに伝えるようにしていく。
- ・コロナ禍ではあるが、感染対策をしながらプールや運動会などができればいい。
➡コロナの感染状況を鑑みながら、様々な行事等を計画していきたい。
- ・近所の1年生の下校が遅く、騒いでいる。
- ・帰宅時間を守って欲しい。5時過ぎでも遊んでいる子や飛び出しがあり危ない。
➡安全な登下校の仕方について、通学班会等で指導する。また、帰宅後の過ごし方については、担任や生徒指導から、適宜指導する。
- ・日々小さいいじめが多々あると思う。その当事者の保護者にも経緯を説明し踏み込んだ対応が必要。
➡いじめについては、「どの子にも、どの学校にも起こり得る」ものであることを全職員が認識し、適切に対応するようにしており、児童や保護者からのいじめの訴えはどんな些細なものでも速やかに対応できるようにしている。当事者から事情を聞き取り、問題解決までを丁寧に、速やかに行い、保護者にも確実にお伝えするように徹底する。